2025/12/11 No.752 発行
無断転載・加工禁止
※教員研修等にお役立てください。

教職研修資料

〔発行〕教育開発研究所
東京都文京区本郷 2-15-13
TEL (03)3815-7041
FAX (0120)462-488

■学校経営のポイント

教育実習生は見た

喜名　朝博

小学校での教育実習が終わり、ゼミで報告会を行った。実習前は不安を抱えていた学生も、終わってみると、もう少し続けたかったと異口同音に語る。

教育実習を通して教職への思いがさらに強くなったのは、後任育成という使命感に基づく受け入れ校の献身的な指導の賜物である。

そんな、教育実習生が見た学校のリアルをいくつか紹介したい。

きめ細やかな担任の配慮

職員室の電話は常にふさがっているという印象をもった学生が多かった。それだけ、学校はたくさんの方々との関係のうえに成り立っていることを理解したようだ。

とくに放課後、担任が保護者に電話をしている光景を見て、授業以外の担任のきめ細やかな配慮を知ったと言う。学校での出来事について知らせたり、欠席している子どもの家庭に電話したりして様子を聞いている。この配慮が保護者との信頼構築に欠かせない。不登校の未然防止にもつながる。

翌日、「〇〇さん、明日は登校できるって」と学級で伝えれば、クラスの一員として誰もが大切にされていることを実感させることができる。

子どもの名前を挙げて語る先生たち

子どもたちの下校後のちょっとした時間、学年の先生方は自分の仕事をしながらも、学級や学年の子どもたちの様子を半分あきれたり、半分嬉しそうにしたりしながら語り合っていたことが意外だったと言う。自分もこうやって話題にあがっていたのかもしれないと思うと嬉しくなったと語る。

子どもたちの行動や頑張りを振り返ることを通して成長を確認しているだけでなく、教師はそれを自らの喜びや教師としての成長に昇華することができる。教育実習生が教師のやりがいを垣間見た瞬間だった。

自分のペースで仕事をする

様々な報道によって学校はブラックだというイメージが作られている。学校における働き方改革の推進は喫緊の課題であるが、教育実習生はどう見たのだろうか。授業や授業準備、会議や打ち合せに学級事務等々、いつも忙しそうでいつ声をかけていいかわからなかったと言う。

しかし、日数を重ねることで見えてきたのが、自分のペースで仕事をしているということだ。早めに出勤して登校前に様々な準備を済ませる先生、放課後に時間をとってじっくり仕事をしている先生、退勤時刻を目指して集中する先生、そんな姿を見て自分もやっていけそうだと思ったと語る。

結局、人間関係が大切

「休み時間は子どもたちと遊ぶことを最優先にする」、これは実習前に伝えてきたことだが、実習を通してその意味がわかったと言う。結局、子どもたちとの人間関係の上に授業が成立していることを納得したようだ。

さらに、「先生！」と寄ってきてくれる子どもたちの後ろで距離をとっている子どもたち、さらにその後ろに居る子どもたちにも目を向けなければならないと気づいたことも成果だった。

カントは「人は人によりてのみ人となり得べし」と言った。教育は人間関係の中でのみ成立する。学校は子どもたちや教師などたくさんの人が関わりながら互いに成長していく素晴らしい場所なのだ。そんな教育の本質に触れ、学生たちも一回り大きくなった。来年の中高での実習が楽しみだ。

（きな・ともひろ＝国士舘大学教授／全国連合小学校長会顧問）

みんなが幸せになる　（12/25 発売!）
校長のごきげん革命
【著】住田昌治／四六判／定価 2,420 円
本の詳細およびご予約は、右ＱＲコードより小社ホームページをご利用ください。